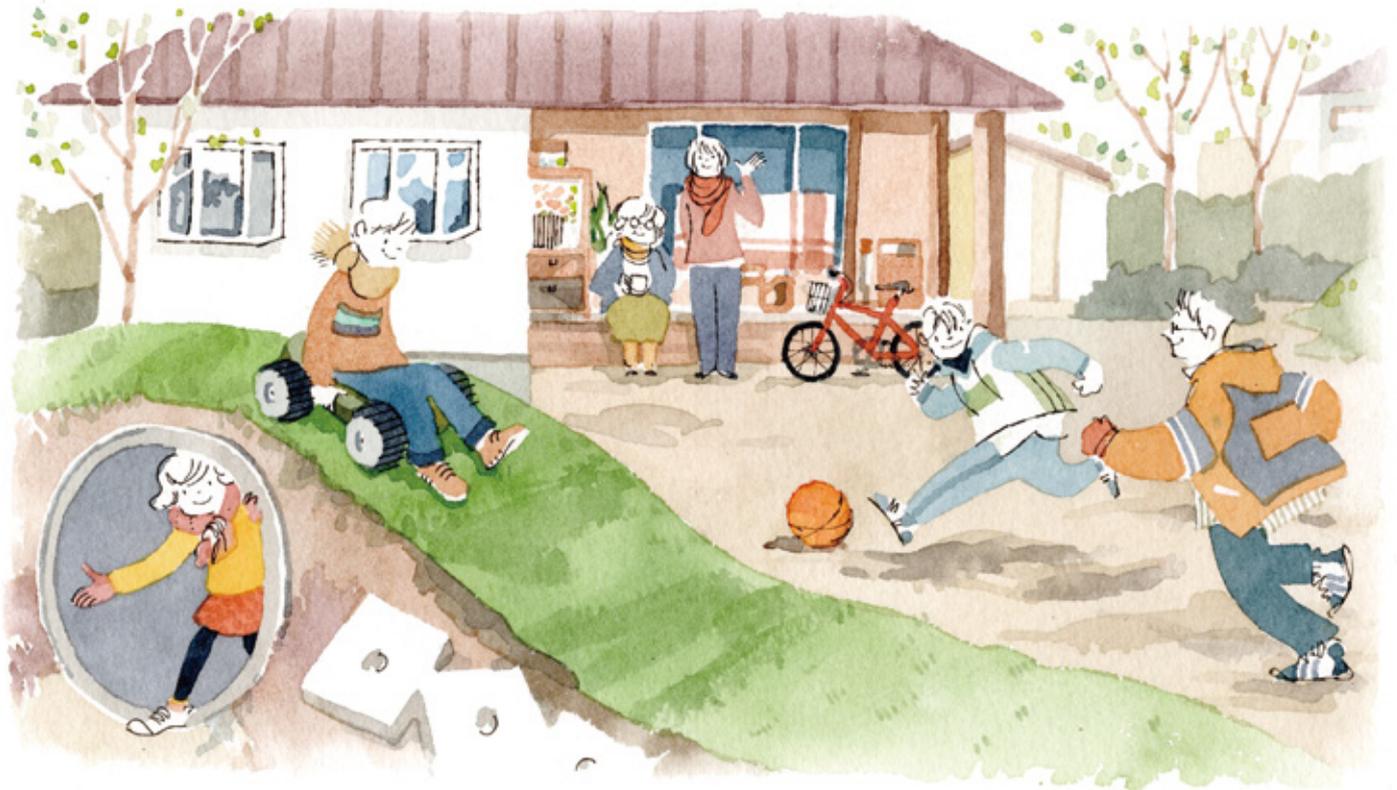




## 子どもの村東北

# News Letter



子どもたちの心を育てる遊び場があります。

第4回

## おじゃまします。

初めて村を訪れた私と、村の人たち

「子どもの村東北」の敷地中央にある広い庭は、この村で過ごす子どもたちの格好の遊び場。そして子どもたちが人とのつながりを学ぶ場でもあるといいます。「遊びたいという意思表示が苦手な子どもいれば、家に帰りがたがる子どももいます。子ども同士の遊び方を知らない子どもも多く時々衝突も起きますけど、子どもたちは遊びを通して触れ合い方を学んでいるのかもしれない」と話してくれたのは育親（里親）さん。自転車に乗って駆けまわったり、

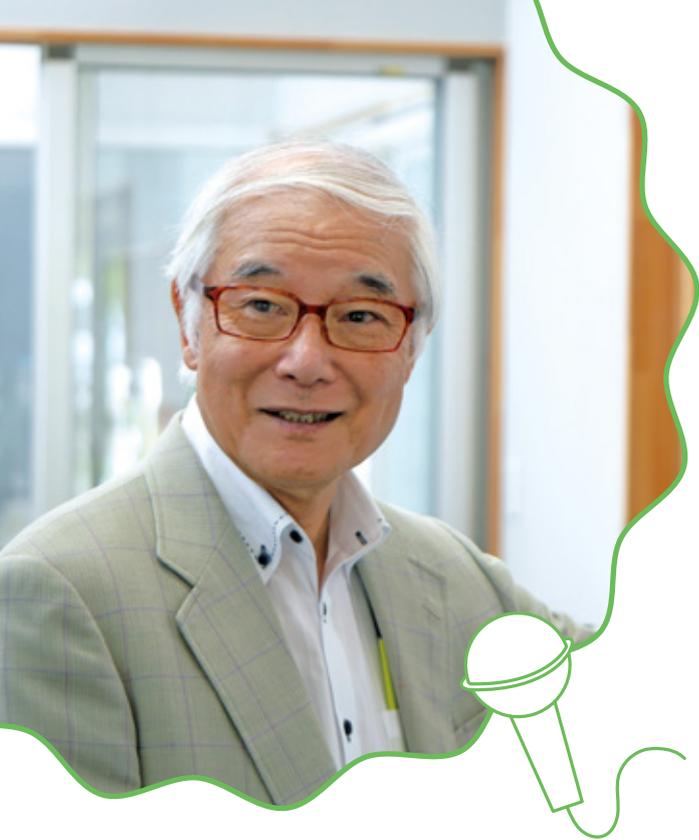
昆虫を採って自然に触れたり、黄色い声を上げながら全力で走り回ったり…。遊ぶ楽しさをめいっぱい感じながら心と体を成長させ、人や社会との接点を広げていくのかもしれない。

友情や信頼を知り、安心感に満たされる。その時子どもたちは穏やかな表情に変わるといいます。しかし里親委託を受け、長い間子どもと暮らしてきた家へ一時保護を受け入れた場合、顔を合わせた子どもたちが互いの存在にやきもちを焼くこともしばしば。注意を引きたいがためにわがままになったり、いたづらをしたりすることもあるそうです。育親さんはそんな時こそ子どもたちを静かに見つめます。「子どものケンカに介入しちゃうと、

どちらの味方をしたかでまた子どもたちが傷付きちゃう。だから仲裁に入るタイミングはよく見計らっています。でも迷惑を掛けながらも関わり方を学んでいる子どもたちには、“のびのびやっていいんだよ、ごめんなさいを言うことで許してくれる環境があるんだよ”ということを伝えたいです」

この村で子どもたちの心を丸くするのは村の育親さんやスタッフたちの優しい見守り。そして少しずつ前に進んでほしいという想いです。「不安で泣いていても、好き嫌いがあっても、うまくいかなくても、ちょっとずつでいいんです。この村で何よりも大事なことは、子どもたちが安心して休めること、そしてあたたかい食事を食べてもらうことですから」（文・及川）

# 理事長 インタビュー



「子どもの村東北」を統括する立場から支える飯沼<sup>かずいぬ</sup>一字理事長。  
小児科医としての経験から得たこと、理事会の役割について、  
そしてこれからの村のことなど、今の想いを聞きました。

## 子どもの目線に立つことを 忘れずにいた小児科医時代

「未来のある子どもたちのために」と、小児科医を志した飯沼理事長。東北大学病院では診察と並行しながら子どもの脳の発達についての研究にも取り組み、仙台に手厚い小児科診療の裾野を広げました。「小児科医は子どもの母親と話をする機会が多いのですが、目の前にいるのは子どもですから。子どもの目線で話をすることは常に心がけてきました。例えば、専門用語を使わずにわかりやすい説明をするということなどです」。病棟を見回す時には子どもたちが大好きな

キャラクターがデザインされたネクタイを付けていたという飯沼理事長。「子どもたちがそれに気付いてからは、毎週いろんなキャラクターのネクタイをつけていってね(笑)。そうなる子どもたちも次はどんなネクタイをつけてくるのかなって楽しみにしてくれる。そうして子どもたちとの親近感を深めていきました」

## ”子どもの村を応援したい” その気持ちがありがたい

長年勤めた東北大学病院を退職後、石巻赤十字病院の院長に。2011年3月11日に起きた東日本大震災では、混乱の中でスタッフの総指揮を執るという経験もしました。「あの時に得たのは災害に備えた準備や装備の大切さ。通信網や流通、非常時に対応できる協力体制の重要性も感じました」。そしてその翌年、院長の職を退いたのを機に「子どもの村東北」への理事長へ就任することになりました。その当時のことを「未知の世界へ飛び込んだようだった」と振り返ります。「子どもの村という場所はまだ世の中に広く知られていなかったし、それを機に私自身が、社会的養護を必要とする子どもがこんなに

たくさんいるのだということ再認識しました」。しかし今では理事長としてこの村の根幹と子どもたちや育親さんを大きな支える存在に。村での生活をサポートしたり、村全体を総合的に取りまとめ企画などの方針も考えたり…。さらに、いただいた寄付の運用を考えたり、村の情報発信を計画したりとたくさんの方のグループによって運営される理事会のトップに立ち、法人全体を統括しています。「村を続けていくためには多額の費用が必要になりますが、だからこそ村へ対するあたたかな気持ちを込めて寄付をしてくださる方を大切にしていきたいんです。どんな形でも、なんとか子どもの村を応援したいと思って実行してくださることが非常にありがたいです。そうした草の根的な支えには力強さを感じます」

## 子どもと育親を支えながら 広い基盤を築いていきたい

開村から5年。今、理事長が抱くのは「育親になりたい、と相対的な覚悟を持って手を上げてくれた方たちとその尊い意思に敬意を表したい。そして何として子どもたちと育親さんを支えていき

たい」という想い。そのために必要なのは、理事会の機能がしっかり作用すること。さらに「基盤を広げ、土台をつくること」だと話します。「この村が成り立つのは、支援者の方に広く支えていただいているから。だからこそ、その支援の基盤を広く作る事が大切だと考えています。口にするのは簡単だけど、実行するのは非常に難しい。だから開村から5年が経っても、いまだ基盤づくりが大事なんです」。村でどんなことが行われているのか、子どもたちが日々どんな生活を送っているのか。そんな村の出来事を知ってもらうことも大切です。しかし何よりも大切なのは子どもたちの命と暮らしを守ること。医師として長年子どもたちを見つめてきた理事長は、今も、そしてこれからも、子どもたちだけでなく育親と村の支援者までに寄り添ったあたたかな視線を届け続けます。

## プロフィール

飯沼 一字 (いぬま かずいぬ)  
NPO 法人子どもの村東北理事長  
小児科医、医学博士、東北大学名誉教授、石巻赤十字病院名誉院長、日本小児神経学会名誉会員、日本てんかん学会名誉会員

\* 子どもの村東北では、村で暮らしている里親さんのことを「育親」と呼びます。

## トレンドワード

# フォスタリング チェンジ・ プログラム

里親とその子どもとの関係を改善し、問題行動に対応するスキルを実践的に学ぶ「フォスタリングチェンジ・プログラム」。その内容や効果について、「子どもの村東北」のスタッフでこのプログラムのファシリテーターも務める心理師の川村玲香さんと福祉士の佐藤桃子さんに聞きました。

### 「フォスタリングチェンジ・プログラム」とは？

1999年にイギリスで開発されたこのプログラムは、里親さんとその子どものよりよい関係づくりに役立てるためのものです。社会的養護が必要な子どもは発達障害や愛着障害、ためし行動などの課題

が生じることが多いため、そうした不調が起きないように里親さんを支援していくことにも重点を置いています。里親さん自身がさまざまな問題行動を通じた“子どものニーズ”に気づき、考え、さらに対応できるようになることを目指し、多くのスキルを実践的に学びます。

### プログラムの内容は？

今年度、子どもの村東北で実施しているこのプログラムに参加しているのは里親を6ヶ月以上預かっている里親さん。1回のセッションは3時間で、3ヶ月間で全12回行われるセッションに参加します。長期間となるため参加のハードルが高いように

感じるかもしれませんが、ワークは講義形式ではなく体験参加型形式で、和やかな雰囲気の中で緊張せずに参加できる環境になっています。その中で参加者同士がグループを組み、各家庭の問題や課題を話し合ったりロールプレイングを行ったりしながら実践形式で学びを深めます。セッション内容は子どもの行動や発達段階の理解から効果的な褒め方、肯定的なしつけ、里親さん自身のケアまでと多岐に渡ります。学んだワーク内容の振り返りを実際に家庭で行う“宿題”もあるため参加者の積極的な姿勢が必要です。また、里親さんの悩みにまで寄り添う環境が備わっているのも大きな特徴です。



### プログラムのポイントは？

このプログラムの目的は、子どもが起こす問題行動を正すことではありません。子どもの視点を重視しながら褒めることで問題行動をよい行動へと導き、里親さんと子どもとの関わり方を改善させていくことが重要になります。子どもたちは問題行動を起こすことで落ち着きが無くなったり家に居づらくなったりと、ネガティブな感情を抱えてしまいます。そのため、子ども自身の行動を否定したりするのではなく、その行動のいい部分に気付かせていくことが大切なのです。

### 具体的なトレーニング内容は？

一例をあげると社会的養護の子どもたちは、“かまってほしい”、“自分に注目してほしい”という想いが強くなりがちで、

養育者や周囲が望まない行動をする傾向にあります。そうした行動を繰り返す上で“怒られることで自分に注意が向くのだ”という気づき生まれ、マイナスな意味合いで注目を浴びることが強化されてしまうのです。そのためこのプログラムでは、子どもの行動を意図的に無視することもトレーニングのひとつとして取り入れています。一見すると子どもに対する冷たい行動のように思われるかもしれませんが、落ち着いた環境に子どもを置き、怒られる行動を起こした状況を一区切りする時間も必要となるのです。

### 「子どもの村東北」でも実践スタート！

日本では「SOS子どもの村 JAPAN (子どもの村福岡)」で初めて取り入れられたこのプログラムですが、子どもの村東北での実施は今回が初めてとなります。この

プログラムに参加することが里親さんにとって息抜きになると共に、安心安全な場となることを願うばかりです。心地よい音楽が流れる中、お茶とお菓子を楽しみつつグループワークを重ねていく3ヶ月。私たち自身も、参加する方が気負わずに来てもらえるような雰囲気づくりに努めます。現在は3月末までのプログラムを開催中ですが今度も継続的に実施する予定です。参加条件は限られてしましますが、詳細についてはお気軽にお問合せください。

#### PROFILE

公認心理師 / 川村 玲香 (かわむら れいか)  
社会福祉士 / 佐藤 桃子 (さとう ももこ)

#### [ 問合せ ]

今後の開催日程やプログラム内容、参加条件などの詳細は下記までお問合せください。

子どもの村東北 センターハウス  
TEL 022-281-9653 (担当:佐藤)

## 支援企業・団体 \ 応援 / メッセージ



アサヒビール株式会社  
仙台支社 支社長  
荻野 庸省

震災以降、宮城県の沿岸部におけるコミュニティ再生のお手伝い等をしてきた私たち。地域に根ざした心の復興にも貢献したいという思いから「子どもの村東北」への支援も続けています。一度村へお邪魔しましたが、ひとつの家で育親さんと子どもが向き合っているという体制は素晴らしいですね。そんな中で子どもたちが明るく元気に育ち、村から受けた愛情をまた誰かへ還元できるような優しい大人に成長してほしいと願っています。

## スタッフおすすめ 図書

『弁護士・実務家に聞く  
里親として知っておきたいこと  
里親養育Q&A』  
特定非営利活動法人 SOS子どもの村 JAPAN (2019)



2012年3月に初版が発行され大好評を得た「弁護士に聞く、里親として知っておきたいこと」が2019年遂にリニューアルされました。児童福祉法、子どもの権利、施設養護と家庭養護、

里親としての心構え、実親との関係、病気や事件・事故への対応をはじめ、日本の里親養育の現状や最新の法改正も分かりやすく解説されています。里親養育についてより一層理解を深めていただけるお奨めの一冊です。

## ご支援いただいた企業・団体のみなさま

2019年7月1日～12月31日

\*敬称略・順不同

### 支援会員寄付

有限会社白川牛肉店、東北会病院、株式会社ホームユニバース、株式会社アルファー企画、国際ソプロチミスト石巻サン・ファン 医療法人社団原口小児科クリニック、株式会社大観楼、医療法人社団章仁会くさかり小児科、株式会社人來田興産 仙台小児科医会、アオイ産業株式会社、合資会社山久商店、有限会社華丸ラーメン、さくら工房株式会社、有限会社細谷ドライクリーニング工場 一般社団法人仙台キワニスクラブ、ミライズ株式会社、ハイファイヴ英語学院、有限会社ふじや千舟、トリプルエース株式会社、株式会社カナエル

### 一般寄付

アメリカン・エクスプレス・インターナショナル、Inc.、日米親子支援ネット、茂庭台町内会連絡会、国際ソプロチミスト熊本—さくら 仙台いずみライオンズクラブ（こいのぼりポール物品寄付）茂庭苑地域包括センター、茂庭台豊齢ホーム（図書カード） 茂庭台学区町内会連合会、ふるさと怪談トークライブ、株式会社仙台銘板、第一光の子保育園、NPO 法人日本脳トレーニング協会 宮城県遊技業協同組合、医療法人青樹会、医療法人社団千実会、夏にうたう合唱祭、長谷幼稚園保護者会、国際ソプロチミスト仙台アイリス 仙台青葉学院短期大学こども学科、ハイファイヴ英語学院、茂庭荘、ほのぼの童謡愛好会、中山社会福祉協議会子ども応援隊 みちのくノルディックウォーキングネットワーク、加美地区少年補導員協会、穀町保育園、医療法人こだま小児科、日本基督教団仙台五橋教会愛隣こども園 小牧幼稚園父母の会、TOTO 株式会社、木工とトールの家 ハーモニー、ぶらんか

支援会員 個人会員 938名 / 団体会員 86企業・団体 \*2019年12月31日現在

【法人事務局は2月1日より子どもの村センターハウス内に移転しました。】



認定特定非営利活動法人

## 子どもの村東北

資料請求・お問い合わせ / TEL:022-281-8837

WEBサイトは [子どもの村東北](http://cvtohoku.org/) で検索ください。

【法人事務局】

TEL : 022-281-8837 (新規) / E-mail : info@cvtohoku.org

【子どもの村】

TEL : 022-281-9653 / E-mail : center-t@cvtohoku.org

住所 : 〒982-0252 仙台市太白区茂庭台 2丁目16-9-1

FAX : 022-281-9659

\*法人事務局と子どもの村の住所・FAXは共通となります

URL : <http://cvtohoku.org/>

※当法人は認定NPO法人です。当法人へのご寄付は確定申告の際、税制上の優遇措置が受けられます。